

2017年度 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

Tohoku University Accounting School

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人では初めての会計専門職大学院として開設された。本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。本大学院での教育の理念は、会計分野の知識だけでなく、経済や経営、IT、法律といったこれからの社会で会計の専門家として活躍するために求められる知識と素養を修得することである。この理念を達成するため、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。本会計大学院の理念に鑑み、私たちは、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくためのひとつの手段として、毎 Semester 終了後にアンケートを実施している。過去のアンケートは、「アンケート実施報告書」として会計大学院のウェブサイト で公開している。

私たちがこの報告書を公表する意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や、学生の主要な就職先となる監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に、本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。この調査報告書の公開によって、本大学院の修了生が高い意欲をもって学習に取り組んでいることを示すことができると考えている。

また、私たちは、このアンケート調査報告書を在学生が教員に対して発信したメッセージと捉えている。今後とも、私たちはアンケートを通じて改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供できるよう努力していきたいと考えている。アンケート結果についてご意見等をいただければ幸いである。

本会計大学院では、前回の認証評価の結果や会計専門職をめぐる社会的な状況をふまえ、2015年度より修了要件の変更を含む大規模なカリキュラムの改訂を実施した。2017年度末で修了した学生のほとんどは新カリキュラムのもとで学習しており、今回のアンケート結果はカリキュラムの改訂を評価するための資料になると考えられる。

2018年7月

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

¹ <http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2018a.html>

2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、2018年1月18日（木）から1月30日（火）の間に受講者に配布・実施された。アンケートの種類は以下に示す通りである。

- ①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末資料 1）
- ②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末資料 2）

両アンケートともに無記名であり、「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」は1学生につき1回限りの回答とした。「会計大学院の授業に関するアンケート」は履修者が5名以上である全ての講義を対象とし、学生は受講している講義ごとに回答を行っている。なお、講義担当教員の希望があったものについては、履修者が5名未満の場合でも実施している。

本報告書では、まず「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析結果を示して問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。続いて、「会計大学院の授業に関するアンケート」の結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を検討する。なお、本報告書ではアンケートにより得られたデータを可能な限り定量的に分析したいと考えている。

「会計大学院の授業に関するアンケート」における科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目18の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は、担当教員に原文を直接報告されている。ワークショップ委員会では、各教員がこれを通じて次年度以降の講義内容の充実に資することと期待している。

3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」の集計結果について

3.1. アンケートの実施状況

本アンケート用紙は2017年度後期に開講された科目のうち、多数の会計大学院学生が履修する「財務会計2」（会計大学院学生の履修者18名）において配布・回収され、この科目を履修していない学生については会計大学院事務分室で配布・回収を行った。回収数は18である（ただし、項目によって無回答の場合もある）。会計大学院の在籍学生数の5割程度に相当するため、アンケート結果には会計大学院学生の総意がある程度反映されていると考えられる。

3.2. 設問ごとの集計結果と推移

以下では、それぞれの設問についての集計結果と、直近8年度分の推移を示す。なお、全項目の集計結果については巻末資料を参照されたい。

設問1（表は未掲載）は受講者属性を問うものであり、18名の回答のうち、15名が公認会計士コース1年生であり、2名が公認会計士コース2年、1名が会計リサーチコースであった。本アンケート回答者は全員が会計大学院学生であった。したがって、会計リサーチコースの回答者が少ないものの、本アンケート結果は当会計大学院学生のカリキュラムに対する声がある程度反映しているものと考えられる。

設問2：基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

選択項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
適切である	50.00%	39.47%	35.71%	61.90%	65.22%	22.22%	44.44%	61.11%
ほぼ適切である	40.00%	31.58%	35.71%	28.57%	17.39%	66.67%	40.74%	27.78%
どちらともいえない	5.00%	26.32%	17.86%	0.00%	8.70%	11.11%	11.11%	5.56%
やや不適切である	5.00%	2.63%	10.71%	9.52%	8.70%	0.00%	0.00%	5.56%
不適切である	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
総数	20	38	28	21	23	18	27	18

設問3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

選択項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
適切である	31.58%	18.42%	31.03%	55.00%	47.83%	44.44%	37.04%	27.78%
ほぼ適切である	26.32%	23.68%	31.03%	30.00%	21.74%	38.89%	37.04%	33.33%
どちらともいえない	15.79%	18.42%	20.69%	10.00%	17.39%	5.56%	14.81%	11.11%
やや不適切である	15.79%	28.95%	13.79%	5.00%	8.70%	0.00%	7.41%	27.78%
不適切である	10.53%	10.53%	3.45%	0.00%	4.35%	11.11%	3.70%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%
総数	19	38	29	20	23	18	27	18

設問4：オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数は。

選択項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
5回以上	25.00%	10.53%	6.90%	13.04%	21.74%	5.56%	18.52%	0.00%
4回または3回	10.00%	2.63%	17.24%	13.04%	13.04%	16.67%	3.70%	5.56%
2回	0.00%	10.53%	3.45%	4.35%	4.35%	5.56%	7.41%	0.00%
1回	10.00%	10.53%	27.59%	13.04%	21.74%	16.67%	18.52%	22.22%
利用しなかった	55.00%	65.79%	44.83%	56.52%	39.13%	55.56%	51.85%	72.22%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%
総数	20	38	29	23	23	18	27	18

設問5：セメスター開始時の個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

選択項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
役に立った	40.00%	23.68%	13.79%	60.00%	69.57%	38.89%	40.74%	38.89%
まあまあ役に立った	5.00%	36.84%	37.93%	25.00%	21.74%	44.44%	33.33%	27.78%
どちらともいえない	30.00%	23.68%	24.14%	10.00%	4.35%	5.56%	7.41%	11.11%
あまり役に立たなかった	5.00%	7.89%	17.24%	0.00%	0.00%	5.56%	11.11%	0.00%
役に立たなかった	20.00%	7.89%	6.90%	5.00%	4.35%	5.56%	7.41%	22.22%
計	100.00%	100.00%	100%	60.00%	100%	100%	100%	100.00%
総数	20	38	29	20	23	18	27	18

設問 6 : GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか.

選択項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
適切である	25.00%	10.53%	24.14%	18.18%	52.17%	33.33%	11.11%	27.78%
ほぼ適切である	15.00%	23.68%	17.24%	45.45%	4.35%	27.78%	44.44%	27.78%
どちらともいえない	55.00%	34.21%	41.38%	27.27%	26.09%	22.22%	18.52%	27.78%
やや不適切である	5.00%	18.42%	10.34%	9.09%	13.04%	11.11%	14.81%	16.67%
不適切である	0.00%	13.16%	6.90%	0.00%	4.35%	5.56%	11.11%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%
総数	20	38	29	22	23	18	27	18

設問 7 : 受験のための自主学習には 1 日平均何時間くらい掛けていますか.

選択項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
5 時間以上	40.00%	43.24%	35.71%	25.00%	27.27%	44.44%	55.56%	41.18%
4-5 時間	5.00%	10.81%	17.86%	15.00%	18.18%	5.56%	11.11%	35.29%
3-4 時間	25.00%	8.11%	10.71%	15.00%	18.18%	11.11%	7.41%	17.65%
1-3 時間	5.00%	24.32%	17.86%	15.00%	13.64%	11.11%	0.00%	0.00%
1 時間未満	25.00%	13.51%	17.86%	30.00%	22.73%	27.78%	25.93%	5.88%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%
総数	20	37	28	20	22	18	27	17

注) 「1 時間未満」の項目は 2010 年度アンケートまでは「していない」であった.

設問 8 : e-mail, HP を用いた連絡システムは役に立ちましたか.

選択項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
役に立った	60.00%	71.05%	55.17%	55.00%	60.87%	72.22%	74.07%	61.11%
まあまあ役に立った	35.00%	23.68%	31.03%	35.00%	21.74%	11.11%	14.81%	27.78%
どちらともいえない	5.00%	5.26%	13.79%	5.00%	13.04%	16.67%	3.70%	5.56%
あまり役に立たなかった	0.00%	0.00%	0.00%	5.00%	4.35%	0.00%	3.70%	5.56%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	3.70%	0.00%
計	100.00%	100.00%	100%	55.00%	100%	100%	100%	100.00%
総数	20	38	29	20	23	18	27	18

設問 9 : 在学中の受験を考えていますか.

選択項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
考えている	63.16%	59.46%	48.28%	55.00%	47.83%	61.11%	59.26%	72.22%
まだ決めていない	10.53%	10.81%	13.79%	20.00%	21.74%	16.67%	3.70%	11.11%
考えていない	26.32%	29.73%	37.93%	25.00%	30.43%	22.22%	37.04%	16.67%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%
総数	19	37	29	20	23	18	27	18

設問 10 : OB 会について

選択項目	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
賛成	80.00%	78.38%	67.86%	65.00%	86.96%	64.71%	80.77%	88.89%
反対	5.00%	2.70%	10.71%	10.00%	4.35%	5.88%	3.85%	0.00%
分からない	15.00%	18.92%	21.43%	25.00%	8.70%	29.41%	15.38%	11.11%
計	100.00%	100.00%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%
総数	20	37	28	20	23	18	26	18

3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問2から10の集計結果をもとに、問題点を抽出するとともに対応を検討する。

設問2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、これまでと同様に、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答してもらった。「適切である」と「ほぼ適切である」の合計は88.9%程度である。2017年度に「適切である」と回答した学生の割合は61%を越えており、2015年度の22%から大幅に改善している。現行の科目配置のバランスは、学生たちに高く評価されていると考えられる。

設問3（セメスター間の開設授業科目のバランス）については、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計が61%であり、2016年度から10%程度落ちたものの高水準であった。「やや不適切である」が27%あり、「不適切である」がゼロであったものの、2016年度よりは悪化している。今後も継続してセメスター間で開講授業科目にかたよりがでないように配慮していきたい。

設問4（オフィスアワー）については、基本的にこれまでと同じ傾向が示された。「1回」あるいは「利用しなかった」と回答した学生が9割以上おり、これまでの傾向がより顕著なものとなった。ただし、多くの学生は授業の終わりや個別にアポイントをとって質問等を行っているのが実態であり、オフィスアワーの利用の少なさが直ちに問題になったり、オフィスアワーが必要ないという結論につながることは考えられない。他方、オフィスアワーを3回以上利用した学生の割合もわずかながらおり、オフィスアワーを設定することそれ自体は一部の学生にとっては非常に有用であるといえる。

設問5（個人面談）については、これまでと同様に「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が66%と高水準であり、効果が高いことが示唆されている。ただし、「あまり役に立たなかった」と「役に立たなかった」の合計も2割を越えており、個々の学生の進路・学習状況に応じて、面談の内容を工夫する必要があることを示している。

設問6（GPAによる評価）では、「やや不適切である」と「不適切である」がともに28%程度であり、2016年度よりも改善した。この設問に関しては、AA, A, B, C, Dによる成績評価の良し悪しと、GPAあるいはこの設問の趣旨を学生が理解しているかどうかの両面を考える必要がある。前者については、「授業に関するアンケート」の設問11で同様の質問を行っているが、2017年度も授業ごとの成績評価に大きな問題はなかったようである。GPAは様々な用途に利用されることがあるが、本会計大学院では、自己管理のための利用を特に強調している。こうしたGPAの趣旨を学生にも理解してもらいたいところではあるが、設問6については今後も経過を観察していきたい。

設問7（受験勉強にかける時間）では、「5時間以上」と「4-5時間」の合計が76%程度と、過去8年で最高水準になった。過去2年度も約半数が5時間以上を受験勉強に割いており、この数年は意欲的に受験勉強に取り組む学生の割合が多いことがわかる。

設問8（email, HPを用いた連絡システム）については、これまでどおり「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計が89%程度あり、現行の連絡システムで問題がないものと考えられる。

設問9（在学中の受験）では、在学中の受験を「考えている」と回答した学生の割合は72%程度と過去8年で最高水準であった。在学中の受験を「考えていない」と回答した学生も過去8年で最低水準であった。学生の進路選択が多様化していた過去の傾向が変わったようにも見えるが、今回の本アンケートの回答者が財務会計2の履修者だけであることを考えると、これは会計大学院全体の傾向とは異なるかもしれない。様々な方法で学生のニーズを汲み取り、より充実したカリキュラムを設計していきたい。

4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

4.1. アンケートの実施状況

「会計大学院の授業に関するアンケート」は、前述の通り、履修者が5名以上の授業及び担当教員からの希望があった17科目について実施された。アンケート実施科目と履修者・アンケート回収数をまとめると次のようになる。

授業科目名	履修者数	回収数
原価計算 2	19	17
簿記 2	22	17
情報システム設計	7	4
監査計画の編成法 1	10	6
内部統制の実務	6	4
財務諸表分析	8	6
金融行政 2	6	7
ビジネス・プレゼンテーション 1	5	6
監査 2	9	9
国際監査	9	8
管理会計 1	14	6
財務会計 2	18	17
公会計 1	8	7
IFRS 1	17	14
コーポレートファイナンス	7	5
マクロ経済学	7	5
消費税法	5	4
合計	177	142

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表 1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、述べ履修者数 177 名に対して 142 名から回答を得た。アンケートの回答率は 80.02% と高水準であり、結果の信頼性は高いと言える。なお、質問項目 17 は科目担当教員が独自に設定できる質問であり、アンケートの集計には含めていない。

4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどの値が大きくなるよう設定されているため（設問1を除く）、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。あわせて、参考のため標準偏差も計算した。その結果は以下の通りである。なお、アンケートの内容については資料2を参照されたい。

項目\設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	37	93	4	6	5	54	89	102	99	98	95	71	101	69	92	52
4	86	37	2	2	7	71	44	34	33	37	35	46	31	35	38	0
3	7	4	3	7	12	14	6	2	3	2	7	18	5	20	8	60
2	1	5	18	22	19	1	1	1	4	3	3	3	2	8	0	1
1	5	3	49	59	47	1	1	1	1	0	0	2	1	4	1	23
0	6	-	66	46	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	142	142	142	142	136	141	141	140	140	140	140	140	140	136	139	136
平均値	3.92	4.49	0.86	1.14	1.28	4.25	4.55	4.68	4.61	4.64	4.59	4.29	4.64	4.15	4.58	3.42
中央値	4	5	1	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
最頻値	4	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	3
標準偏差	1.15	0.91	1.11	1.21	1.34	0.72	0.68	0.61	0.73	0.62	0.69	0.87	0.69	1.09	0.67	1.43

表2：アンケートの基本統計量

これまでのアンケート結果と同様、設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）、設問16（資格）以外は、平均値が概ね4以上であり、中央値や最頻値も4か5である。この傾向は過去数年と大きな違いはなく、会計大学院の講義に対する評価はこれまでと変わらず良好であると言ってよいだろう。ただし、授業の予習、復習、宿題にかかる時間はあまり多くない状態が何年も続いている。設問3（予習）、設問4（復習）、設問5（宿題）に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保していない。これは過年度の傾向と同様であり、継続的にこれに対処する方法を模索する必要がある。全体として、学生の各講義に対する評価は高い水準にあるといえるものの、予習・復習・宿題にかかる時間を一定数確保するように授業を設計する必要があるといえる。

4.3. 各設問間の相関

質問項目間の相関関係をみるために、表3を作成した。なお、0.50以上の相関係数については太字にしている。設問16の資格については、より高い資格であるほど高いスコアとなるようになっている。

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1															
2 出席	-0.101	1														
3 予習	0.146	-0.055	1													
4 復習	0.133	0.104	0.619	1												
5 宿題	0.201	-0.045	0.339	0.389	1											
6 理解	0.027	0.029	0.184	-0.047	0.085	1										
7 難易度	0.384	-0.006	0.126	-0.014	0.049	0.455	1									
8 教員準備	0.311	0.002	0.058	-0.007	-0.027	0.456	0.606	1								
9 プレゼン	0.221	-0.038	0.035	-0.049	0.009	0.427	0.485	0.787	1							
10 教材	0.207	0.018	0.066	0.039	-0.090	0.380	0.524	0.795	0.693	1						
11 評価方法	0.116	0.155	0.076	0.018	-0.012	0.336	0.501	0.585	0.535	0.655	1					
12 シラバス	0.120	0.123	0.131	0.031	0.079	0.345	0.426	0.567	0.528	0.493	0.507	1				
13 教員評価	0.303	0.054	0.032	-0.026	0.003	0.415	0.549	0.793	0.745	0.730	0.657	0.588	1			
14 対試験	0.223	0.257	0.164	0.222	0.091	0.236	0.419	0.327	0.248	0.299	0.240	0.263	0.274	1		
15 キャリア	0.170	0.141	0.056	0.035	-0.042	0.251	0.423	0.529	0.387	0.589	0.392	0.408	0.487	0.325	1	
16 資格	0.239	-0.098	-0.035	-0.165	0.118	0.152	0.208	0.239	0.162	0.104	0.154	0.241	0.271	-0.107	0.163	1

表3：質問項目間の相関関係

過年度と同様に、設問3（予習）と設問4（復習）の間で比較的高い正の相関が見られる。これらの設問は学生の会計大学院の授業に関連する勉強時間についてのもので、予習等をよく行う学生は復習等もよく行うことを示している。

ここでは、学生の理解度（設問6）、授業の難易度（設問7）及び教員の評価（設問13）を中心に検討したい。学生の理解度（設問6）については、授業の難易度（設問7）と高い相関関係を持ち、難易度を適切に設定している授業ほど学生の理解度が高くなることが示唆される。また、授業の難易度（設問7）は、学生の理解度（設問6）のほか、教員の準備（設問8）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、教員評価（設問13）と高い相関関係を有する。教員の準備、教材、評価方法が含まれることから、適切に授業設計を行うことが授業の難易度の適切な管理につながっていることが示唆される。

教員の評価（設問13）については、授業の難易度（設問7）、教員の準備（設問8）、教員のプレゼン（設問9）、教材（設問10）、評価方法（設問11）、シラバス（設問12）、キャリア（設問15）と高い相関関係を有する。

これを踏まえると、授業の難易度を適切に管理することは、教員の評価にも繋がっていることが推測される。ただし、教員のプレゼンとも高い相関関係を有することから、授業の難易度の管理だけでなく、授業における説明の方法等も影響することは言うまでもない。その他、キャリア（設問15）が含まれるものの、対試験（設問14）が含まれないことから、公認会計士を受験する上で直接的に役立つ授業内容よりも将来のキャリアにおいて役立つ授業内容の方が教員の評価が高くなる傾向にあるといえる。

なお、こうした傾向は過去と同様のものである。上記の表については過去の報告書でも報告されている。過去の報告書については、会計大学院WEBサイトを参照されたい（<http://www.econ.tohoku.ac.jp/~tuasad/keiji2018a.html>）。

4.4. 設問ごとの集計結果と所見（自己評価）

以下では、それぞれの設問についての集計結果と過去4年間の推移を示し、各々所見を示す。なお、アンケート全項目の集計結果については巻末資料4を参照されたい。

設問1：該当するものを選んでください（受講者属性）

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
公認会計士コース（2年）	38.24%	29.84%	33.47%	35.82%	31.28%	32.14%	31.28%	26.06%
公認会計士コース（1年）	40.44%	54.84%	52.99%	52.24%	55.38%	48.81%	55.31%	60.56%
会計リサーチコース	15.07%	10.08%	7.97%	9.45%	11.28%	11.90%	6.15%	4.93%
経済経営学専攻	2.57%	1.61%	2.39%	2.49%	0.51%	5.95%	0.56%	0.70%
経済学部	1.84%	2.02%	1.59%	0.00%	1.54%	0.00%	6.70%	3.52%
その他	1.84%	1.61%	0.00%	0.00%	0.00%	1.19%	0.00%	4.23%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	272	248	251	201	195	168	179	142

受講者属性に大きな傾向の変化はなかった。

設問2：この講義にどのくらい出席しましたか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
90%以上	88.55%	85.37%	88.26%	86.87%	88.48%	70.41%	84.36%	65.49%
89-70%	6.87%	8.54%	8.50%	8.08%	4.19%	18.34%	8.38%	26.06%
69-50%	2.67%	2.85%	0.81%	3.03%	1.57%	6.51%	2.23%	2.82%
49-20%	0.38%	1.22%	0.40%	2.02%	2.09%	1.78%	1.68%	3.52%
20%未満	1.53%	2.03%	2.02%	0.00%	3.66%	2.96%	3.35%	2.11%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	262	246	247	198	191	169	179	142

2016年度後期と2017年度後期だけ、90%以上出席した学生の割合が7割前後と明らかに低い。2018年度もこの傾向が続けば、後期のほうが出席率が低くなる何らかの要因の存在を疑うべきであろう。各教員にできることは、引き続き出席率が低下する学生がいないか、現場で管理を行うことである。

以下、設問3から設問5は、学生の時間外での学習に係る設問であることからまとめて検討する。

設問3：この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
5時間以上	4.10%	8.87%	7.60%	10.40%	2.05%	7.10%	4.49%	2.82%
4-5時間	2.61%	5.65%	0.80%	2.48%	2.56%	1.18%	2.25%	1.41%
3-4時間	4.85%	5.24%	2.80%	2.97%	5.64%	7.10%	3.93%	2.11%
2-3時間	14.93%	12.10%	10.00%	13.37%	11.28%	16.57%	11.80%	12.68%
1-2時間	32.46%	31.05%	38.00%	41.58%	34.87%	28.40%	34.83%	34.51%
1時間未満	41.04%	37.10%	40.80%	29.21%	43.59%	39.64%	42.70%	46.48%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	268	248	250	202	195	169	178	142

設問4：この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
5時間以上	5.20%	8.84%	8.03%	8.04%	7.73%	8.33%	7.34%	4.23%
4-5時間	2.60%	5.62%	2.01%	2.01%	2.06%	1.19%	1.69%	1.41%
3-4時間	5.95%	7.23%	3.61%	5.53%	6.19%	11.31%	3.95%	4.93%
2-3時間	18.22%	12.85%	17.67%	13.57%	11.34%	12.50%	14.12%	15.49%
1-2時間	39.03%	36.14%	42.57%	46.23%	38.66%	36.90%	46.33%	41.55%
1時間未満	29.00%	29.32%	26.10%	24.62%	34.02%	29.76%	26.55%	32.39%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	269	249	249	202	194	168	177	142

設問5：この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
5時間以上	10.37%	16.05%	10.08%	20.00%	8.25%	18.34%	9.71%	3.68%
4-5時間	5.19%	10.70%	0.81%	6.50%	5.67%	7.10%	4.57%	5.15%
3-4時間	9.63%	11.93%	10.48%	7.00%	5.67%	8.88%	10.29%	8.82%
2-3時間	22.96%	11.11%	18.15%	11.50%	19.07%	11.83%	14.86%	13.97%
1-2時間	29.26%	23.87%	31.45%	33.50%	30.41%	30.18%	32.57%	34.56%
1時間未満	22.59%	26.34%	29.03%	21.50%	30.93%	23.67%	28.00%	33.82%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	270	243	248	201	194	169	175	136

上で指摘したように、設問3から設問5に回答した学生のうちの半数以上が2時間以下しか学習時間を確保していない。これは過年度の傾向と同様であり、この傾向は年々強くなっているように見える。学習時間の確保は担当教員にとって継続的な課題であるといえる。ただし、予習、復習、宿題のいずれに重点を置くかは科目の特性に依存するところであろう。例えば、少人数科目では、次回の講義での報告（予習ないし復習）に重点が置かれるであろうし、講義系の科目では、小テスト等が頻繁に実施されることから、復習に重点が置かれるであろう。ただし、設問5については過去数年と逆の傾向が見てとれる。5時間以上、あるいは4時間以上と回答した学生の割合は、2016年度までは後期のほうが多かったが、2017年度については前期のほうが多くなっている。これは開講科目の配置の影響を受けている可能性が高いが、どういった環境の変化が影響しているのか、監視と調査を続けていきたい。

設問6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
理解できた	37.55%	38.15%	38.25%	36.14%	24.10%	33.73%	32.40%	38.30%
ほぼ理解できた	42.01%	46.99%	37.85%	44.55%	49.74%	46.15%	46.93%	50.35%
どちらともいえない	17.47%	12.45%	20.72%	16.34%	21.54%	15.98%	15.64%	9.93%
あまり理解できなかった	2.97%	2.41%	2.39%	2.48%	3.59%	1.78%	5.03%	0.71%
理解できなかった	0.00%	0.00%	0.80%	0.50%	1.03%	2.37%	0.00%	0.71%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	269	249	251	201	195	169	179	141

講義内容を「理解できた」または「ほぼ理解できた」と回答した学生の割合はこれまでと同様高水準で、過去4年間では最高水準である。この水準を今後も維持していきたい。

設問7：この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
適切	75.00%	76.71%	68.13%	69.50%	63.59%	65.68%	63.69%	63.12%
ほぼ適切	19.40%	16.47%	23.51%	24.00%	25.13%	26.63%	28.49%	31.21%
どちらともいえない	4.85%	6.43%	7.57%	4.50%	10.77%	5.33%	5.03%	4.26%
やや不適切	0.75%	0.40%	0.80%	1.50%	0.00%	1.18%	2.23%	0.71%
不適切	0.00%	0.00%	0.00%	0.50%	0.51%	1.18%	0.56%	0.71%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	268	249	251	201	195	169	179	141

難易度が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合はこれまでどおり9割を越えており、学生からは講義の難易度は受け入れられるものと認識されている。

設問 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
十分	80.44%	86.35%	81.67%	80.60%	73.58%	76.19%	80.34%	72.86%
ほぼ十分	13.28%	10.44%	10.76%	12.94%	18.65%	18.45%	15.17%	24.29%
どちらともいえない	5.17%	2.01%	5.18%	3.98%	5.70%	2.98%	2.81%	1.43%
やや不十分	0.74%	0.40%	1.20%	0.50%	1.04%	0.60%	1.69%	0.71%
不十分	0.37%	0.80%	1.20%	1.99%	1.04%	1.79%	0.00%	0.71%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	271	249	251	201	193	168	178	140

教員の準備が「十分」または「ほぼ十分」と回答した学生の和依頼は9割を越えており、これまでと同様高い水準にあると考えられる。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 9：教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
良かった	77.78%	85.54%	76.10%	77.11%	69.74%	73.37%	71.51%	70.71%
まあまあ良かった	15.93%	11.65%	15.54%	16.92%	23.08%	21.89%	21.23%	23.57%
どちらともいえない	3.70%	2.41%	4.78%	3.98%	4.10%	1.78%	4.47%	2.14%
やや悪かった	1.48%	0.00%	1.99%	1.49%	2.05%	1.78%	1.68%	2.86%
悪かった	1.11%	0.40%	1.59%	0.50%	1.03%	1.18%	1.12%	0.71%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	270	249	251	201	195	169	179	140

教員のプレゼンテーションが「良かった」または「まあまあ良かった」と回答した学生は9割程度であり、前年度と同様に高い水準にあると考えられる。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
適切	71.96%	82.33%	70.52%	74.63%	69.23%	69.82%	42.80%	70.00%
ほぼ適切	18.08%	14.86%	19.52%	19.90%	16.92%	21.30%	16.24%	26.43%
どちらともいえない	8.12%	2.41%	7.57%	3.48%	11.79%	7.10%	4.06%	1.43%
やや不適切	0.74%	0.40%	0.80%	0.50%	0.51%	0.00%	2.21%	2.14%
不適切	1.11%	0.00%	1.59%	1.49%	1.54%	1.78%	0.00%	0.00%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	271	249	251	201	195	169	171	140

テキスト等が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、前年度と同様に高い水準にある。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 11：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
適切	74.07%	79.52%	76.49%	82.59%	73.33%	71.01%	70.62%	67.86%
ほぼ適切	18.15%	15.66%	19.12%	14.43%	14.87%	22.49%	23.73%	25.00%
どちらともいえない	5.19%	3.61%	3.98%	1.99%	10.26%	5.33%	3.95%	5.00%
やや不適切	1.85%	1.20%	0.00%	0.50%	0.00%	0.00%	0.56%	2.14%
不適切	0.74%	0.00%	0.40%	0.50%	1.54%	1.18%	1.13%	0.00%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	270	249	251	201	195	169	177	140

成績評価の方法が「適切」または「ほぼ適切」と回答した学生の割合は9割程度であり、前年度と同様に高い水準にある。成績評価はGPAによる評価の基礎となっており、適切に行う必要があることは言うまでもないが、学生が納得しているかも重要である。ほとんどの学生は適切に成績評価が行われていると感じており、今後もこれを維持する必要があると思われる。

設問 12：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
役に立った	67.16%	72.18%	68.92%	66.67%	60.51%	63.91%	58.19%	50.71%
まあまあ役に立った	18.45%	20.56%	21.12%	24.88%	22.05%	24.26%	28.81%	32.86%
どちらともいえない	9.96%	5.65%	8.76%	7.96%	14.87%	10.06%	11.30%	12.86%
あまり役に立たなかった	1.48%	0.81%	0.80%	0.00%	0.51%	0.00%	0.00%	2.14%
役に立たなかった	2.95%	0.81%	0.40%	0.50%	2.05%	1.78%	1.69%	1.43%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	271	248	251	201	195	169	177	140

シラバスが「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答した学生の割合は 8～9 割程度であり、前年度と同様に高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 13：総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
評価できる	77.49%	83.53%	76.49%	80.10%	71.28%	77.51%	73.18%	72.14%
まあまあ評価できる	16.61%	13.65%	18.73%	14.43%	19.49%	18.34%	21.23%	22.14%
どちらともいえない	3.32%	1.61%	1.59%	3.98%	7.69%	2.37%	5.03%	3.57%
あまり評価できない	1.11%	0.40%	1.99%	0.50%	0.51%	0.00%	0.00%	1.43%
評価できない	1.48%	0.80%	1.20%	1.00%	1.03%	1.78%	0.56%	0.71%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	271	249	251	201	195	169	179	140

教員のパフォーマンスを「評価できる」または「まあまあ評価できる」とした学生の割合は 9 割程度であり、前年度と同様に高い水準を維持している。総合的に教員に対する学生からの満足度は高いと考えられるため、今後もこの水準を維持する必要がある。

設問 14：この講義は公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
役立つ	61.94%	62.35%	57.37%	59.70%	53.09%	55.15%	57.80%	50.74%
まあまあ役に立つ	20.90%	15.38%	18.73%	15.42%	21.13%	20.61%	26.01%	25.74%
どちらともいえない	11.19%	14.98%	16.33%	13.93%	16.49%	12.73%	8.67%	14.71%
あまり役に立たない	3.36%	4.86%	3.19%	6.47%	2.58%	3.03%	4.05%	5.88%
役に立たない	2.61%	2.43%	4.38%	4.48%	6.70%	8.48%	3.47%	2.94%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	268	247	251	201	194	165	173	136

公認会計士試験の受験に「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は、これまでと同様で 7 割強の水準にあった。会計大学院は必ずしも公認会計士試験に「直結」する科目ばかりが設定されている訳ではないことから、この程度の水準が妥当であると考えられる。

設問 15：この講義は将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。

選択項目	2014 前期	2014 後期	2015 前期	2015 後期	2016 前期	2016 後期	2017 前期	2017 後期
役立つ	72.01%	77.24%	70.28%	71.14%	56.54%	72.19%	67.60%	66.19%
まあまあ役に立つ	19.40%	17.48%	18.07%	23.38%	29.32%	20.71%	25.14%	27.34%
どちらともいえない	6.34%	3.25%	8.43%	4.48%	8.90%	4.73%	4.47%	5.76%
あまり役に立たない	0.75%	0.81%	2.81%	0.50%	4.71%	1.18%	2.23%	0.00%
役に立たない	1.49%	1.22%	0.40%	0.50%	0.52%	1.18%	0.56%	0.72%
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.00%	100.00%
総数	268	246	251	197	191	169	179	139

将来のキャリアに「役立つ」または「まあまあ役立つ」と回答した学生の割合は 9 割程度であり、前年度と同様に高い水準を維持している。今後もこの水準を維持する必要がある。

最後に、設問 16「あなたがすでに合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい」につき、2017 年度後期の集計結果について述べる。ここでは、資格試験を 3 段階（①日商簿記 1 級レベル以上、② 2 級レベル、③それ以下）に分けて、どの段階の知識を有している状況にあるのかについて質問した。入試段階で一定の簿記の素養を確認しているため、学生は概ね日商簿記 2 級レベル以上の実力は有していると考えられる。ただし、本質問では、資格の有無を問うているので、必ずしも実力と連動するわけではないことに留意が必要である。

2017 年度後期では、① 38%、② 44%、③ 17% 程度であった。本年度後期については、学生の 4 割近くが 1 級レベル以上の知識を有しており、高度な計算能力を有していることがわかる。その一方で（先の留意点をふまえて）③も 2 割程度いることから、計算能力に係る学生の実力差は過年度と同様に大きいといえる。

4.5. 自由記入欄の意見について

「会計大学院の授業に関するアンケート」に設けられた自由記入欄については、科目担当教員による対応が必要であるので、寄せられた意見はこれまで通り担当教員へ報告し、改善すべき点は改善を行うよう依頼している。

5. 結び

2017年度後期における「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」と「会計大学院の授業に関するアンケート」の集計結果等をふまえると、2015年度に実施した大規模なカリキュラムの改訂は会計大学院学生から概ね良好な評価を得ており、本会計大学院は高い教区水準を維持していると考えられる。ただし、カリキュラム改訂以前から抱えていた、授業科目に関する学習自家間の確保等の課題の傾向に、大きな変化・改善は見られず、引き続き個々の授業の運用方針を見直すなどして対応する必要がある。カリキュラムの改訂からしばらく経過し、各授業科目の位置付けを定期的に再確認しているが、毎年変化する学生の傾向やニーズを教員間で共有し、担当する授業科目の内容を継続的に見直す必要があると考えられる。最後に、アンケートに真摯に取り組んでいただいた学生各位に感謝を申し上げる。

資料1：2017年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」設問用紙

会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2017年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラム改善に役立てることを目的として行うものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

カリキュラムについて

番号	質問	回答
2	基礎、展開、実践・応用科目（注）の配置は適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
3	セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
4	オフィスマナーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数についてお答えください。	(5) 5回以上 (2) 1回 (4) 4回または3回 (1) 利用しなかった (3) 2回
5	セメスター開始時に行われる個人面談は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
6	成績評価に用いているGPAは、学生個々の能力を適切に評価できると思いますか？	(5) 適切である (2) やや不適切である (4) ほぼ適切である (1) 不適切である (3) どちらともいえない
7	講義の予習・復習・宿題以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらい時間を掛けていますか？	(5) 5時間以上 (2) 1-3時間 (4) 4-5時間 (1) 1時間未満 (3) 3-4時間
8	本大学院では、学生への連絡・掲示媒体としてe-mail、HPを用いていますが、このシステムは役に立ちましたか？	(5) 役に立った (2) あまり役に立たなかった (4) まあまあ役に立った (1) 役に立たなかった (3) どちらともいえない
9	在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか？	(5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない
10	会計大学院OB会を組織したいと考えています。OB会創設に関してご意見をお聞かせ下さい。	(5) 賛成 (4) 反対 (3) 分からない 《特にご意見のある方は、自由記入欄へご記入下さい。》
11	今後、新たに開設すべき科目がありますか？	自由記入欄に3つ以内で回答して下さい。

(注) 科目分類については裏面を参照して下さい。

基礎科目：各科目領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提とし、より高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料2：2017年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」設問用紙

会計大学院の授業に関するアンケート（2017年度後期）

このアンケートは会計大学院の授業改善に学生諸君の意見を反映するためのものであり、集計結果等は報告書として公表致します。

授業科目名はマークシート用紙に記入されていますので御確認下さい。

回答者属性

番号	質問	回答
1	あなたの専攻・コース（学年）について、該当するものを選んで下さい。	(5) 公認会計士コース（2年） (2) 経済経営学専攻 (4) 公認会計士コース（1年） (1) 経済学部 (3) 会計リサーチコース (0) その他

科目内容について

番号	質問	回答	備考
2	この講義にどのくらい出席しましたか？	(5) 90%以上 (4) 89-70% (3) 69-50% (2) 49-20% (1) 20%未満	おおよその出席率で回答して下さい。
3	この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
4	この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	宿題に掛けた時間を含めずに回答して下さい。
5	この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか？	(5) 5時間以上 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 2-3時間 (1) 1-2時間 (0) 1時間未満	セメスターを通じた平均時間を回答して下さい。
6	この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか？	(5) 理解できた (4) ほぼ理解できた (3) どちらともいえない (2) あまり理解できなかった (1) 理解できなかった	
7	この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	この講義が基礎、展開、実践・応用科目（注）の何れに属しているか（マークシートに記載）を考慮して回答して下さい。

（注）実践・応用科目は基礎、展開科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

番号	質問	回答	備考
8	教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	
9	教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか？	(5) 十分だった (4) ほぼ十分だった (3) どちらともいえない (2) やや不十分だった (1) 不十分だった	板書・プロジェクター等の利用も考慮して回答して下さい。
10	テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	
11	この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか？	(5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない (2) やや不適切である (1) 不適切である	シラバスに記載されている成績評価を考慮して回答して下さい。
12	この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか？	(5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった	講義を選択する際に役立ったかという点も考慮して回答して下さい。
13	総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか？	(5) 評価できる (4) まあまあ評価できる (3) どちらともいえない (2) あまり評価できない (1) 評価できない	
14	この講義は、公認会計士試験を受験する上で役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
15	この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか？	(5) 役立つ (4) まあまあ役に立つ (3) どちらともいえない (2) あまり役に立たない (1) 役に立たない	
16	あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	(5) 税理士会計科目 or 公認会計士 短答式・論文集 or 日商簿記1級 (3) 日商簿記2級 (1) 上記について無し	(5) と (3) の両者に該当する方は、(5) のみ回答してください。
17	《講義担当教員による質問》	(5), (4), (3), (2), (1)	担当教員による質問があれば回答して下さい。
18	《自由記入欄》	授業の感想、担当教員への要望、また本アンケートの各質問に関連した更なる意見等を、マークシート添付の用紙に自由に記入して下さい。	

アンケートは以上です。御協力感謝致します。

資料3：2017年度「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 回答者属性	公認会計士コース (2年)	2	11.11%
	公認会計士コース (1年)	15	83.33%
	会計リサーチコース	1	5.56%
	経済経営学専攻	0	0.00%
	経済学部	0	0.00%
	その他	0	0.00%
	合計	18	100.00%
設問2 基礎, 展開, 実践・応用科目の配置は適切だと思いますか.	適切である	11	61.11%
	ほぼ適切である	5	27.78%
	どちらともいえない	1	5.56%
	やや不適切である	1	5.56%
	不適切である	0	0.00%
	合計	18	100.00%
設問3 Semester間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか.	適切である	5	27.78%
	ほぼ適切である	6	33.33%
	どちらともいえない	2	11.11%
	やや不適切である	5	27.78%
	不適切である	0	0.00%
	合計	18	100.00%
設問4 オフィスアワーを利用して教員に履修相談・質問等を行った回数.	5回以上	0	0.00%
	4回または3回	1	5.56%
	2回	0	0.00%
	1回	4	22.22%
	利用しなかった	13	72.22%
	合計	18	100.00%
設問5 Semester開始時の個人面談は, 学習計画を立てる上で役に立ちましたか.	役に立った	7	38.89%
	まあまあ役に立った	5	27.78%
	どちらともいえない	2	11.11%
	あまり役に立たなかった	0	0.00%
	役に立たなかった	4	22.22%
	合計	18	100.00%
設問6 GPAによって学生の能力を適切に評価できると思えますか.	適切である	5	27.78%
	ほぼ適切である	5	27.78%
	どちらともいえない	5	27.78%
	やや不適切である	3	16.67%
	不適切である	0	0.00%
	合計	18	100.00%
設問7 受験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか.	5時間以上	7	41.18%
	4-5時間	6	35.29%
	3-4時間	3	17.65%
	1-3時間	0	0.00%
	1時間未満	1	5.88%
	合計	17	100.00%
設問8 e-mail, HPを用いた連絡システムは役に立ちましたか.	役に立った	11	61.11%
	まあまあ役に立った	5	27.78%
	どちらともいえない	1	5.56%
	あまり役に立たなかった	1	5.56%
	役に立たなかった	0	0.00%
	合計	18	100.00%
設問9 在学中の受験を考えていますか.	考えている	13	72.22%
	まだ決めていない	2	11.11%
	考えていない	3	16.67%
	合計	18	100.00%
設問10 OB会について	賛成	16	88.89%
	反対	2	11.11%
	分からない	0	0.00%
	合計	18	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります.

資料4：2017年度後期「会計大学院の授業に関するアンケート」集計結果

	選択項目	人数	割合
設問1 あなたの専攻・コース(学年)について、該当するものを選んで下さい。	公認会計士コース(2年)	37	26.06%
	公認会計士コース(1年)	86	60.56%
	会計リサーチコース	7	4.93%
	経済経営学専攻	1	0.70%
	経済学部	5	3.52%
	その他	6	4.23%
	合計	142	100.00%
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	93	65.49%
	89-70%	37	26.06%
	69-50%	4	2.82%
	49-20%	5	3.52%
	20%未満	3	2.11%
	合計	142	100.00%
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	4	2.82%
	4-5時間	2	1.41%
	3-4時間	3	2.11%
	2-3時間	18	12.68%
	1-2時間	49	34.51%
	1時間未満	66	46.48%
	合計	142	100.00%
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	6	4.23%
	4-5時間	2	1.41%
	3-4時間	7	4.93%
	2-3時間	22	15.49%
	1-2時間	59	41.55%
	1時間未満	46	32.39%
	合計	142	100.00%
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間を掛けましたか。	5時間以上	5	3.68%
	4-5時間	7	5.15%
	3-4時間	12	8.82%
	2-3時間	19	13.97%
	1-2時間	47	34.56%
	1時間未満	46	33.82%
	合計	136	100.00%
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	54	38.30%
	ほぼ理解できた	71	50.35%
	どちらともいえない	14	9.93%
	あまり理解できなかった	1	0.71%
	理解できなかった	1	0.71%
	合計	141	100.00%
設問7 この講義の難易度は会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	89	63.12%
	ほぼ適切	44	31.21%
	どちらともいえない	6	4.26%
	やや不適切	1	0.71%
	不適切	1	0.71%
	合計	141	100.00%
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	102	72.86%
	ほぼ十分	34	24.29%
	どちらともいえない	2	1.43%
	やや不十分	1	0.71%
	不十分	1	0.71%
	合計	140	100.00%

	選択項目	人数	割合
設問9 教員の説明や声量など、授業でのプレゼンテーションは良好でしたか。	十分	99	70.71%
	ほぼ十分	33	23.57%
	どちらともいえない	3	2.14%
	やや不十分	4	2.86%
	不十分	1	0.71%
	合計	140	100.00%
設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	98	70.00%
	ほぼ適切	37	26.43%
	どちらともいえない	2	1.43%
	やや不適切	3	2.14%
	不適切	0	0.00%
	合計	140	100.00%
設問11 この講義の成績評価の方法は適切であると思いますか。	適切	95	67.86%
	ほぼ適切	35	25.00%
	どちらともいえない	7	5.00%
	やや不適切	3	2.14%
	不適切	0	0.00%
	合計	140	100.00%
設問12 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	71	50.71%
	まあまあ役に立った	46	32.86%
	どちらともいえない	18	12.86%
	あまり役に立たなかった	3	2.14%
	役に立たなかった	2	1.43%
	合計	140	100.00%
設問13 総合的に見て、この講義における教員のパフォーマンスをどう評価しますか。	評価できる	101	72.14%
	まあまあ評価できる	31	22.14%
	どちらともいえない	5	3.57%
	あまり評価できない	2	1.43%
	評価できない	1	0.71%
	合計	140	100.00%
設問14 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	69	50.74%
	まあまあ役に立つ	35	25.74%
	どちらともいえない	20	14.71%
	あまり役に立たない	8	5.88%
	役に立たない	4	2.94%
	合計	136	100.00%
設問15 この講義は、将来のキャリアにおいて役立つと思いますか。	役立つ	92	66.19%
	まあまあ役に立つ	38	27.34%
	どちらともいえない	8	5.76%
	あまり役に立たない	0	0.00%
	役に立たない	1	0.72%
	合計	139	100.00%
設問16 あなたが既に合格している資格試験等について、該当するものを選んで下さい。	日商簿記1級レベル以上	52	38.52%
	日商簿記2級	60	44.44%
	上記について無し	23	17.04%
	合計	135	100.00%

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。

2017 年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	松田 康弘
委員	青木 雅明
委員	木村 史彦
委員	米谷 健司

会計大学院アンケート実施報告書 2017 年度後期

2018 年 7 月発行

編集・発行：東北大学会計大学院ワークショップ委員会